

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	刺網、流し網
対象魚類	クルマエビ
対象海域	熊本有明海

網田漁協が実施する囲い網施設によるクルマエビ中間育成の技術指導 県北広域本部水産課・香崎 修

【背景・目的】

網田漁協はクルマエビ資源の増加を目的に、中間育成を含めた種苗放流を毎年行っている。当課では、近年不安定となっている中間育成の生残率の向上・安定化を目的として技術的な支援を行っており、特に平成 30 年度は前年度に引き続き将来的な技術移転を併せて目的とした。

【普及の内容・特徴】

(1) 中間育成内容

漁業者が設営した 3 基の囲い網に稚エビ（4 月 23 日採卵、網入れ時 44 日齢、P33、平均体長 16.5mm）を約 60 万尾（各網 20 万尾ずつ）収容し、当課が試算した給餌量に基づき、平成 30 年 6 月 5 日～6 月 27 日の 23 日間、漁業者が当番制で育成した（写真 1～3）。なお、網の老朽化に伴い今年度 1 基更新されたが、その際に網の直径が 24m から 20m に小型化された。

(2) 生残率等調査

当課は、中間育成期間中の稚エビの生残率や成長を把握するため、6 月 14 及び 26 日に調査を実施した。また、網直径の小型化による影響をみるため、6 月 11 及び 19 日に成長調査のみ実施した。将来、事業主体自らが調査を実施できるよう、当日は漁業者及び種苗購入費補助者の宇土市職員にも参加してもらい手順を指導した（写真 4～6）。

【成果・活用】

(1) 中間育成結果

生残尾数は 427 千尾（生残率 71%）と推定された。囲い網ごとの生残率に目立った違いは確認されなかったが、成長は小型網群が有意に劣った。これは、網直径の小型化に伴う飼育密度の上昇が影響したと考えられた。

(2) 指導内容

漁業者等による調査の実践について、生残率調査はサンプリング地点の偏りに注意すれば問題なく実施できると思われた。成長調査は、重量法で行う場合のエビからの水切り加減で誤差が大きかったため、今後対策を検討していく。

(様式)



写真1 囲い網1基の全景
(直径24m、高さ5.5m)



写真2 漁業者による給餌



写真3 育成中の稚エビ



写真4 生残率等調査
(事業主体等による作業体験)



写真5 成長調査
(事業主体等による作業体験)



写真6 調査に同行した漁業者及び宇土市職員